

8月30日、31日の2日間、東京スカイツリータウン・東京ソラマチで、JA全農、日本野菜ソムリエ協会の共催による「やさいの日2014」が行われ、延べ8千人が来場した。今回は親子で国産野菜を「育てる」「楽しむ」、さらに「食べる」ことを目的とし、ゾーンごとのテーマにあわせ、協賛社による野菜を楽しむ商品の試食フーッスや、やさい苗展示、ミニトマトすくい、ワークショップ、ステーションイベントなどが行われた。

「ベジフルフラワー」 野菜・果物の楽しんで野菜をもうしめは、育てた日本野菜ソムリエ協会り食べたりすることだけではない。日本野菜ソムリエ協会では「ベジフルフラワーアーティスト養成講座」を実施している。ブーケ、オブジェとしてプレゼントに、また規格外品の活用にもなる。

「やさいの日」に東京スカイツリータウンで親子で育てる、楽しむ、食べるイベント

# 国産野菜の消費拡大へ

JA全農・日本野菜ソムリエ協会



ベジフルフラワーの体験講座も行われた



野菜・果物の摂取をどうやって増やすか  
トークセッション  
どうやって野菜・果物の摂取量が増えるか  
。日本野菜ソムリエ協会・福井栄治理事長（中央）と全農園芸総合対策部・野崎和美部長（左）のトークショーでは、「カット野菜など食べやすい形態で」「楽しみながら」「子供の野菜嫌いをなくす」などによるアプローチを掲げた。



イメージキャラクターは卓球の石川佳純選手

新品種ミニトマト JA全農は長卵「アンジェレ」好評 形のミニトマト「アンジェレ」をPRした。シンジエンタジャパンと種子の独占供給契約を結んだ全農オリシナルで、糖度が高くリコペンが豊富。ゼリー部分が少なく果汁が飛びにくいため子供のおやつにも向く。

野菜ソムリエ向け 農経新聞社では、の「新刊書籍を紹介 新刊書籍 野菜と果物」の「改訂9版」に比べ、「生活者へのワンポイントアドバイス」などが充実。今秋からジュニア野菜ソムリエ講座の副読本となるが、一般の生活者も活用できる。



（右から）執筆者の霜村春菜・農経新聞社取締役、当社ライターで野菜ソムリエの渡辺夏恵